



12、14日に都内で開催される全国障害者スポーツ大会で、全13競技がインターネットで動画配信される。撮影や編集を担うボランティアの中には、母国に障害者スポーツを広めたいと考えるアジアの留学生や、障害を持つ大学生もいる。

動画配信は、障害者スポーツ大会の生中継で実績があるNPO法人「STAND」(本部・東京)が都と共同で行う。同団体がボランティアを公募したところ、48人が集まった。

味の素スタジアム(調布市)である陸上競技の撮影を担当する、東京電機大4年のネパール人留学生マハルジャン・スニルさん(27)は「障害者スポーツを母国にも伝えた

「障害者スポーツ、母国に伝えたい」

あす開幕、動画配信 ネパール人留学生ら協力



STANDの伊藤数子代表理事からカメラ操作を教わるマハルジャン・スニルさん(中央)と石渡康大さん(右)

い」と意気込む。子どもの頃、近所に障害を持つ男性がいた。よく一緒に遊んでもらったが、周りからいじめられることも多かった。「ネパールでは家族が障害者の存在を負担に思い、外に出すのを恥ずかしいと思う雰囲気強い」という。パラリンピックなどもあまり知られておらず、スニルさん自身も、大会の存在を知ったのは2年前。来日後だった。

「義足で一生涯懸命走る姿に感動した」と話すスニルさん。「障害者も健常者と同じように運動したり遊びに行ったりできることを、母国の人に感じてほしい。将来はネパールで障害者ボランティアをしたいし、2020年東京パラリンピックにも関わりたい」

ボランティアには3人の障害者もいる。大東文化大4年の石渡康大さん(22)は生まれつきの脳性まひで車椅子生活を送る。スポーツ経験はほとんどないが「障害者が本気で挑む姿勢は刺激になる」という。